

4 子ども会館運営事業

（団体）21年度と比較して、1日平均2.33人分来館者数を減らしたことで、担当課から厳しい評価をいただいた。アンケートや子育て相談を実施していないとの指摘を受けたが、子育て相談については、日々のかかわりの中で行っている。本の読み聞かせのあとなど、相談する場を設けている。成果として認めてもらえないのは、講座でない点、報告がたりない点にある。三つの会館がせめぎ合っているから、来館者数が増えなかった。予算のカットによって行事数が減り、来館者数の減少につながっていると考える。

（担当課）来館者数の減少については、インフルエンザ等の影響もあったと思っている。また、相談数については、充分理解できていなかったと思っている。

Q 事業評価シートの5番については？

A 一番始めに相互理解が充分でなかったという「原因」が現在まで続いている。私たちは、青少年課と協働するというを考えていており、単独の子ども会館を新しい形でやりたかった。法規上の理由はあったかもしれないが、会館運営の方法をそのまま深沢にも当てはめてやってしまっている。深沢子ども会館の運営方法を一緒に考えていきたくかった。

（意見）あくまでも協働してやりますよということでスタートしてやっている。NPOの目的、自分たちの思いを押し出すのではなくて、事業の目的にそって進めて欲しかった。

（団体）承知している。ただ、市の指導員さんがおっしゃったことをすべてやらなくてはならないのか。結果として、市の指導員さんが私たちの上にたってやっている。これは協働なのか。青少年課と意思疎通がうまく図れていない。

Q 協働事業は、新しい公共サービスを提供する。この協働事業を今のかたちのままで、これからもやっていくのか？

A やるとしたら、新たな形の協働の形で行う。

（担当課）施設を管理しながら協働をしていくと一定の限界がある。指導員の配置人数

のことでは、申し訳ないことをした。今後については、市民の方の力を借りながらも、これまでの形にこだわらず行っていきたい。

(意見) 協働事業は、上手くいく場合といかない場合がある。上手くいかなかった原因は、「出だしから話があわなかったこと」と見受けられるが、事業を始めたのだから十分お互いに話し合いながら目的に向かって進むことが必要だと思う。

(意見) お互いの意見を調整して進めていきたいと思う。そのなかで市民活動課の入ることが必要であれば関わっていきたい。

以上